

昭和天皇の禾生村内通過時刻についての通知

昭和二年（一九四二）一〇月

昭和二十二年十月十三日

禾生村議長 近藤 富平

禾生村議員 殿

天皇陛下御巡幸について

天皇陛下の御巡幸は、来る十四日、十五日本県にあらせられ、本村は十五日午後三時三十三分頃から御通りになるので、議員は本村役場前でお迎えしてはどうかと思うから、午後三時二十分までに役場にお集りになるようお知らせします。

（昭和二年「庶務」）

（郡留市蔵 旧禾生村役場文書六三）

山梨県内の天皇巡幸についての報道

昭和二年（一九四二）一〇月

天皇陛下巡幸

秋色濃い甲斐路へ きよう御入峽

天皇陛下には今十四日午後二時二分韮崎駅着のお召列車で秋色の甲斐路巡幸の第一歩をふまれる。十三日夜松本市の御宿舎で県政一般

信各実験室及び醸酵研究所を御視察、五時十七分宿舍湯村町常盤ホテル御着、御少憩の後大村光太郎（造林について）永江敏雄（開拓状況）両氏の奏上をおききになる。

なお十五日の御巡幸路は次の通り

午前七時卅分御宿舎発。国立病院、第六三部隊内戦災住宅、厚生園などを御視察の後、朝日町通りから穴切町を経て八時卅分春日小学校庭の市内生徒児童の奉迎会場に御立寄（予定）。次で常盤町から八日町、一条町を経て峽東方向に向い甲運、岡部、山梨、日下部、加納岩から日川村の水害現場へ九時廿五分着、十分間御視察の後、祝村ブドウ園で九時五十分から十一分間、相興、一宮、石和町を経て十時五十分県立農業学校の郡民奉迎大会場に御立寄り、こゝから国道八号線を一路東へ進み錦生黒駒を経て峠路の藤の木□□□で□□□状況を御視察、峠を越え午後零時四十五分河口村徳川侍従邸で御昼食（一時間半）同二時十五分下吉田町工業試験場同三時十五分谷村町染工会社へ御立寄り染織工業を御視察の後大月町に向い、同三時五十分郡留中校庭の郡民奉迎大会に御立寄り。御少憩後同四時六分大月駅発列車で還幸される

（昭和二年一〇月一四日「山梨日日新聞」）

【解説】 荒廃した国土や人心の立ち直りを期待して、昭和天皇の全国巡幸が、戦後に行われている。昭和二年に山梨県を訪問した昭和天皇は、一〇月一四日に韮崎から甲府へ入り、翌一五日には甲府から石和を経て御坂峠を越え、河口村に入った。この日の午後に吉田の工業試験場を見学し、「同三時十五分谷村町染工会社へ御立寄

の事前奏上を終えた吉江知事と池谷県会議長は同地より陛下に御同行、陛下には十五日午後四時六分大月発お召列車で御退峽になるまで二日間にわたり戦争により各種罹災者、水害状況の御視察、御諮問をなされる。一方県民は各歓迎場、沿道においてありのままの姿でそれぞれお迎えすることになったが十四日の御予定は次の通りである

…巡幸御順路…

午後二時廿二分韮崎駅御着。駅前約十五歩にして車にお召しになるが、この間遺家族郡民の歓迎をうけさせられる、御一行は十四台の自動車を列ね船山橋を経て南下、二時四十分御勅使川橋中間で御下車砂防工事状況を五分間御聴取、三時五分小笠原町巨摩高女歓迎会では郡民歓迎を受けられた後、戦災者、未復員家族、引揚者、傷痍者数十名を御慰問、終って甲府街道を東へ進み三時廿六分玉幡村開国橋際で御下車、道路から約十四メートルの田圃中に立たれ地方病原虫の寄生する宮入員を御研究、権威杉浦博士の御説明をきかれ、さらに市内に入り四時伊勢町遠光寺内立正光生園では孤児寮、妊婦寮を御視察、講堂で孤児らの舞踊を御覧の予定、こゝでオープンの御召車にかえられ車上から市民の歓呼に応えられながら柳町、常盤町、□町を経て同廿五分議事堂前から県庁御着、直ちに県市合同の歓迎大会にお臨みになり車寄せ台上から池谷県議長発声の万才をお受けになる、終って屋上から川村市長の復興状況御説明を御聴取、知事室の県産品を御覧後二階廊下で県内有志とお会いになり同四十五分県庁を御発、同五十五分工専の電気化学、陰極線、電気通

り染織工場を御視察」（山梨日日新聞）した。その後大月の郡留中校庭の郡民奉迎大会に立ち寄り、大月駅から列車で帰京している。